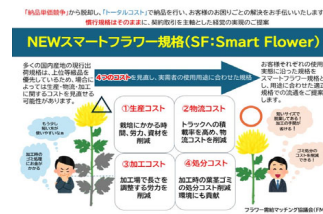


## フラワー需給マッチング協議会（全国）

協議会構成団体：JA全農秋田 JA全農岩手 JA全農長野 JA静岡経済連 JAあいち経済連 JA愛知みなみ JA香川県 JA全農ふくれん JA全農おいた JA熊本経済連 沖永良部花き専門農協 JAおきなわ 沖縄県花卉園芸農協 大田花き 旭川生花 とうほくフラワーサポート 新花 宇都宮花き 南関東花き 名古屋花き 他 全41団体

## 対象品目

国産切花全般



スマート規格定義



自動ラベル貼付け機

## &lt; 取組内容 &gt;

## &lt; 取組の成果 &gt;

## 1. 花き流通の効率化等の取組

- ・(株)大田花きにおいて、これまで手作業で行われていた入荷ラベル貼付の自動化を目指し産地から様々な形態で発行される出荷情報をクラウド上で変換可能なシステムをJFEエンジニアリング(株)が開発し、リーダーでバーコードを読み取ると、クラウド上で変換され、入荷ラベルが自動で貼り付けられる仕組みを構築し実証を行った

- ・これまで手作業で行われていた産地から入荷した商品への市場内での識別用ラベル（販売先や注文品、規格、商品名などの情報記載）の貼付けを、産地側で使用しているバーコード情報をクラウド上で変換することで、貼付け作業を機械化したことで、貼間違い事故の消滅、搬出までの作業時間が従来手法と比較して平均150分縮減する成果が得られた。
- ・自動ラベル貼り機対応型であれば、パレットでの輸送を行うことで、既存の手作業ベタ積み方法での積載量との差が97%とほぼ同等で輸送できることも判明した。



自動ラベル貼付け機

## 2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

- ・スマートフラワー規格(SF規格)を使用した場合の花束加工コストについて、加工でコスト縮減の効果を得られる加工把数を把握し、コストやゴミの縮減量を可視化する実証を行った

- ・加工作業における脱葉、短茎化の作業人員のコストが低減され、別作業へと人員を移動出来ることから、生産性が向上し、年間コストとして2名が240時間ずつ別作業を行うことが可能になり、¥720,000の縮減効果となった。
- ・SF規品を導入することで、廃棄物に関しても20kg/日、600kg/年の縮減の効果が得られることが判明した。
- ・効果が得られる加工数量については、3,000束/日以上からという結果であった。



花束加工作業

## 3. 国と試験研究機関主導による全国レベルでの技術実証

- ・切花流通において、乾式（横箱）と湿式（立箱バケツなど）に分けられるが、乾式では鮮度維持時間が短く、立箱では積載効率が大幅に減少するなどそれぞれ問題があるが、基本は乾式で輸送効率を上げることが出荷コスト削減にもなるため、優先される。そこで横箱に対応し且つ低コストな給水資材の研究と効果について実証を行った

- ・ゲランガムを硝酸アンモニウム、硝酸カリウム、塩化カルシウムおよび硫酸マグネシウム溶液を加えることにより、ゲル化した。ゲランガム濃度を0.1、0.15および0.2%、無機塩濃度を標準、および2倍濃度とし、調製したゲルを給水資材に用いた。その結果、ゲランガム濃度にかかわらず無機塩濃度を2倍にすると、日持ちが比較的長くなった（図1）。しかし、葉に著しい葉害が生じた。また、アクリル酸ポリマーを用いると、対照区（蒸留水）よりも日持ちが短くなった。従ってアクリル酸ポリマーは給水資材として適当でないと判断出来る結果が得られた。



バラの実証結果

## &lt; 今後の取組予定 &gt;

- ・T11パレットでは、大型車輛への積載数が14枚となり積載数量が減少するため、1,200×1,000型のパレットの検討を行う
- ・AI技術で画像認識を更に進化させ、出荷伝票の作成や検品作業の軽減と出荷、搬出作業時間の縮減効果を仮設し検証を行う
- ・高温対策について、技術解決だけではなく気象過去データとAI技術を融合させ、未来予測の可能性について検証を行う

## 全国鉢物類振興プロジェクト協議会（全国）

協議会構成団体：鴻巣花き株式会社、株式会社フラワーオーケーションジャパン、株式会社東京砦花き園芸市場、株式会社青梅インターフロー、株式会社するが花き卸売市場、豊明花き株式会社、株式会社JF兵庫県生花、株式会社花満、九州日観植物株式会社、仙台生花株式会社、北海道植物株式会社、株式会社金沢花市場、西日本花き株式会社、茨城花き流通センター農業協同組合、岐阜花き流通センター農業協同組合、一般社団法人日本花き生産協会鉢物部会、日本洋蘭生産協会

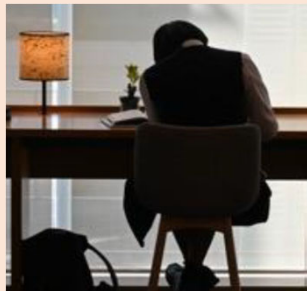
**対象品目**  
対象品目  
鉢物類：  
観葉植物、  
洋蘭、  
花苗等



### < 取組内容 >

#### 2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

- ・閲覧者に小鉢の植物を貸し出しその効果をアンケート調査として実証するネイチャーブレイクモニター調査については、図書館関係者の評価が高く、特に中学生や高校生等の10代を含めて幅広い層の人々に、植物のもつ効用を体験していただき、その反応をアンケート票で答えてもらえることができたので、LED照明を活用した新たな屋内緑化の普及方法として期待される。
- ・令和6年度では、全国各地の12カ所の図書館の参加協力を得て、アンケート用紙854枚を回収・分析した。



図書館の貸した植物鉢と閲覧者の様子

### < 取組の成果 >

- ・回答者全体の性別は、男性33%、女性66%、回答したくない1%であり、年代別には、10代以下4%、10代37%、20代10%、30代7%、40代12%、50代15%、60代以上15%と幅広い世代の呼びかけができた。特に、20代以下の合計が51%と過半数を占めており、若い世代の体験結果が把握できるものになった。
- ・図書館の利用目的は、読書28%、仕事9%、学習56%、その他6%であり、学習や仕事に対する植物の効用について、分析・評価できるデータが多く回収できた。
- ・机の上に植物を置くことで感じた効果としては、「リラックス」と回答した割合81%が最も多く、その次に「集中力向上」30%、「目の疲れ軽減」24%、「アイデアがわく」11%、「肩こり軽減」5%の順であった。
- ・特に、学習目的の回答者の35.0%は「集中力向上」を感じた。これは、仕事や読書目的の人より高く、有意な差が認められた。
- すなわち、植物による視覚刺激や心理的に植物の存在を意識することがリラックス状態を作り、学習に必要な注意・記憶・高次脳機能の活動が持続しやすくなったと考えられる。
- ・また、読書目的の回答者は、「アイデアがわく」の回答率が14.8%で、学習目的の人より高く、有意な差が認められた。
- ・このように植物のある環境によって「集中力向上」や「アイデアがわく」ことは、好きな植物を視界内に置くことで『学習時の集中力向上』『読書や仕事時のアイデア醸成』につながり、学習を行う児童・生徒・若者や一般成人・オフィスワーカーにとって、植物の新たな魅力となり、鉢物類の消費拡大に向けた新しいPRポイントとなる。
- ・最後に、今回の図書館におけるネイチャーモニターの取り組みの継続について尋ねたところ、すべての図書館で70%以上の回答者が継続を希望し、7館では90%以上の回答者が継続を希望した。
- このため、複数の図書館では、モニター調査終了後独自に継続実施している。

#### < 今後の取組予定 >

- ・令和7年度では、このネイチャーブレイクモニター調査結果をベースに、屋内緑化の効用PR冊子を作成・配布して、新たな屋内緑化の普及活動を全国的に展開する。
- ・ネイチャーブレイクモニター調査については、多くの図書館の参加協力を得られたことから、全国各地の花き卸会社等でも、新しいLED照明を活用した屋内緑化の普及活動方法として、地元の図書館に呼びかけて全国的に展開することが期待される。
- ・なお、東京都立立川国際中等教育学校附属図書館のネイチャーブレイクモニター調査の活動事例については、全国学校図書館協議会のWEBニュースにも取り上げられて、大きな反響を呼んでいる。



## 花き全国技術実証2024協議会（全国）

協議会構成団体：農研機構野菜花き研究部門、(株)大田花き、クリザール・ジャパン(株)、一般財団法人日本気象協会、公益財団法人園芸植物育種研究所、秋田県農業試験場、山形県、福島県、千葉県農林総合研究センター、静岡県農林技術研究所、長野県野菜花き試験場、愛知県、奈良県農業研究開発センター、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所、兵庫県立農林水産技術総合センター、島根県農業技術センター、高知県、福岡県農林業総合試験場、長崎県農林技術開発センター、熊本県、宮崎県総合農業試験場、鹿児島県農業開発総合センター

## 対象品目

切り花：トルコギキョウ、輪ぎく、小ぎく、スプレーマム、ディスバッドマム、カーネーション、リンドウ、ハボタン、ダリア、その他の切り花類

枝もの：ユーカリ・ミモザ オリーブ、ケイオウザクラ、その他の枝もの類

鉢もの・苗もの：ポットカーネーション、ポインセチア、パンジー、ペチュニア、その他の鉢もの・苗もの類



## &lt; 取組内容 &gt;

## 3. 国と試験研究機関主導による全国レベルでの技術実証

## ①【土壌病害対策技術の実証】

・土壌くん蒸剤の代替技術開発が課題となっているため、環境負荷が小さく、深層土壌まで効果が得られる「低濃度エタノール土壌還元消毒法」等について全国の生産地で実証試験し、その有効性を評価し、安定した消毒効果が得られる条件の検討を行った。

## ②【異常気象に対応した計画安定生産技術の実証】

・異常気象により花きの価格変動が大きく、相場が不安定になっている中で、特に気象条件の影響を強く受ける露地生産品目について、地域の気象情報と品種特性の理解に基づく計画安定生産技術の実証および生育・開花予測モデルを活用したオンデマンド出荷情報の提供による安定取引の実証を行った。

## ③【物流の2024年問題対策に資する収穫後品質保持技術の実証】

・収穫後の流通過程での保管の導入は生産者と消費者の時間的ギャップを埋めて市場への安定供給に資するものである。そこで、産地と流通事業者の連携による安定供給体制の構築に資する産地前処理、低温保管、梱包補助資材等を活用した技術の実証を行った。

## ①【土壌病害対策技術の実証】

・トルコギキョウについて、低濃度エタノール土壌還元消毒による立枯性病害対策により、実証事例では安定した2度切り栽培が達成され、2度切りを断念した場合と比較して収益を大幅に増加(1061%)させることができた。

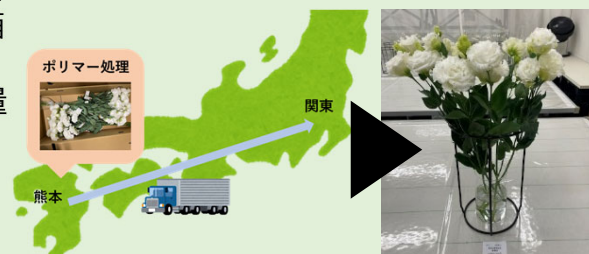
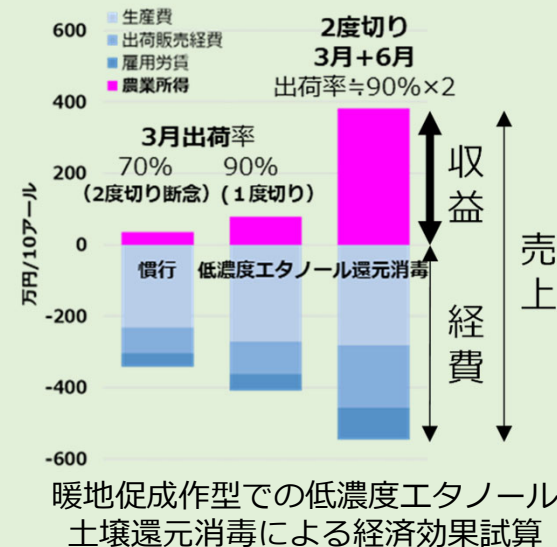
## ②【異常気象に対応した計画安定生産技術の実証】

・電照と適正品種を導入した露地小ぎく機械化効率計画生産によって、安定供給の向上(盆需要期出荷率95.9%)と収穫期見込み情報による市場との事前協議が可能となった。  
・夏秋輪ぎく「精の一世」の8月出し栽培において、高温開花遅延対策にヒートポンプによる夜冷(23℃)処理の有効性を示した。一方、過度の遮光が開花遅延を助長することを示した。

## ③【物流の2024年問題対策に資する収穫後品質保持技術の実証】

・ダリア、トルコギキョウにおいて、高吸水性ポリマーを用いた横箱湿式輸送の効果を検証し、有効性を確認した。これにより縦箱湿式品目の横箱湿式輸送への転換が期待できる。  
・枝もの類等での適切な産地前処理を実証し、処理剤使用量を半減できた。  
・実物展示とアンケート調査から年末需要期のハボタン流通において、販売事業者が産地前処理と低温保管技術の導入に好意的であることを確認した。

## &lt; 取組の成果 &gt;



九州産地からのトルコギキョウポリマー横箱輸送実証

## &lt; 今後の取組予定 &gt;

- ・計画生産技術の安定化と出荷見込み数量の早期把握による市場担当者を介した事前の需給バランスの調整について、その有効性を引き継ぎ実証通じて検証する。
- ・品目・地域ごとの検証を進め、実需者との連携強化を通じて低温保管技術を組み込んだ実証と普及活動に取り組む。
- ・品目ごとの検証を進め、実証技術の普及活動に取り組むとともに、国産安心品質の切り花供給体制を構築を目指す。

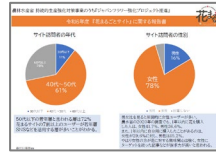
## 花き生産供給力強化協議会（全国）

## 協議会構成団体：

- 一般社団法人 日本花き卸売市場協会、一般社団法人 全国花卸協会
- 一般社団法人 JFTD、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
- 一般社団法人 日本花き生産協会

## 対象品目

切花：カーネーション、輪ギク

ストックポイントRFID  
ゲート一括検品の様子輪ぎく低温・省力化品種  
選抜で選ばれた精興一会花まるごとサイトでの  
アンケート調査を実施

## &lt; 取組内容 &gt;

## 1. 花き流通の効率化等の取組

## 【ストックポイントを活用した流通の効率的な輸送体系等構築実証・検討】

物流の2024年度問題に対応すべく、「花き流通標準化ガイドライン」を踏まえた流通効率化に資する技術（台車やRFIDタグなど）を、ストックポイントを活用し実証を行うとともに、成果を取りまとめた報告書を作成。また、ガイドライン策定時に残課題とされた取引コードについて、JFコード（日本花き取引コード）を活用し、全国各地の花き取引データを毎日速やかに収集・分析し、花き取引関係者に提供する「花き市場流通情報システム」の構築を目指す。

新たに仙台、新潟、金沢、大阪の卸売市場をストックポイントとして活用することで東北、関西間を複数のドライバーによって中継輸送をすることができた。輸送コストは輸送を細分化するため増加することが確認されたため、輸送全体でコスト削減の取り組みが必要である。ストックポイントでは保管のための冷蔵設備や柔軟な受け入れ態勢が必要とされた。台車輸送およびRFID検品によって「トラック輸送状況の実態調査R2（国交省）」と比べ1運行当たりの荷役にかかる時間を12%→3%に削減でき、運転に充てる時間を54%→77%に増加することができた。台車輸送を全国で行うためには、台車の管理運営の組織が必要なが示唆された。また、「花き市場流通情報システム」の構築に不可欠な市場からの毎日の取引データの提供については、地域バランスを考慮しつつ昨年度の10市場から今年度は15市場まで拡大した。

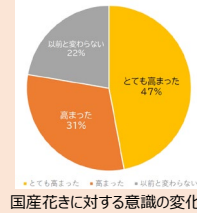


## 2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

## 【国産花きPRサイトの構築事業】

国産花きの消費拡大を目的として、花まるごとサイトを活用して生産者自らが品目の魅力等をPRするサイトの構築を行った。少しずつアクセス数が伸びている中、サイトを閲覧したことによる国産花きに対する意識の変化等に関する調査を実施するためアンケートフォームを設け実証を行った。

R5年度のサイト訪問者数とR6年度を比べると2.8倍にサイト訪問者が増加しており、50代以下の若年層と言われる層が72%と7割以上のユーザーが若年層であった。性別については78%と女性が圧倒的に多く、情報発信の際に、女性にターゲットを絞った記事、キーワードが訴求力が高い。花まるごとサイトを訪れて国産花きに対する意識の変化があったか？について調査したところ、78%の人が意識の変化が見られた。知らないだけで、知ると国産花きに対する興味関心が高まることが分かった。このことから、「想いの詰まった〇〇さんの育てた花」を買いたいと、選んで買われる文化創りに、花まるごとサイトは非常に親和性が高い。今後は、どうすれば国産花きが入手できるのか等、花情報のプラットフォームとして運用していく。

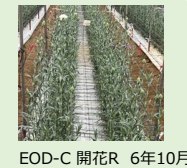


## 3. 国と試験研究機関主導による全国レベルでの技術実証

## 【切花カーネーション生育制御技術の開発・実証事業】

同一作型で共通品種、栽培時期を統一して生産性、切り花品質を比較するとともに気象変化をによる年次変動の影響を検証することを通じ、夏の高温化での栽培技術向上、切り花品質向上を目指す。

冬春切り作型(暖地)：①ヒートポンプによる冷房処理で採花時期が14日促進、11月末までの採花本数が75%増加するとともに、11月の切り花下垂度が2°改善して品質が向上した。②LED照射では、11月末までの採花本数が10%増加、切り花下垂度が2°改善して品質が向上した。  
夏切り作型(寒冷地、暖地)：①寒冷地のLED照射は切り花長が2~3cm増加、下垂度は同等の品質で、採花本数が0.2本増加した。②暖地ではヒートポンプとLED照射の組合わせで、7~10月の切り花下垂度が2°改善し、採花本数は27%増加した。今後、これらの知見をもとに、夏秋期の高温下での採花本数、切り花品質確保技術を構築する。



EOD-C 開花R 6年10月



精興一会の成長過程

## 【輪ギクの冬の低コスト・省力管理のための適応品種実証事業】

輪ギクの業務需要減少、燃油高騰等によるコスト上昇、また側芽の除去など手間のかかる「神馬」に代わる次世代品種の実証を行った。

加温温度13℃でも生育が可能な低温開花性品種により暖房コストの30%削減、芽無し性質を有する品種の側芽摘苗作業が20%以上の労力削減できる品種の栽培を実証できた。加えて、低温開花性品種におけるEOD-heating手法により暖房コストを40%削減できることが明らかになった。

## &lt; 今後の取組予定 &gt;

- ・ストックポイント事業：新たにストックポイントを設けフェリーを使ったモーダルシフトを行い北海道から九州までの広域で中継輸送を行う。データ提供市場を20市場まで拡大し市場取扱高シェア50%強を目指す。同時に、すでに集積した約3千万件のデータ（2024年12月末時点）の解析と可視化をはかる。
- ・花まるごとサイト：R7度からは日本花き生産協会での運用をスタートする。生産者の情報発信とともに、消費者の国産花き認知を上げるために取り組みを実施する。
- ・カーネーション実証事業：カーネーション栽培の環境制御マニュアルの情報更新をし、県の普及員を通して、また研修会を通して実証の効果を広く普及する。
- ・輪ぎく：低コスト省力管理の適応品種として選定された「精興一会」の普及に努める。



国産花き需要拡大推進協議会（全国） <https://homeuse-hana.jp/>

協議会構成団体：（一社）日本花き生産協会、（一社）日本花き卸売市場協会、（一社）全国花卸協会、（一社）花の国日本協議会、（一社）花いけジャパンプロジェクト、マーケティング調査会社、環境コンサルティング会社、女性のエンパワーメントとジェンダー平等推進団体、近畿大学、流通会社、販売会社・関連資材会社等 会員数 12会員、中央検討委員 3名、企画検討委員 27名、事務局 5名

## 対象品目

切り花：ホームユース、ブライダル／切り花・鉢物：花の効果効用、花店、花流通の環境アクション



公式サイト（活動等を紹介）

## &lt; 取組内容 &gt;

## (4) ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

## ①花初心者向けホームユース需要拡大定着活動

花初心者への#花のABCワークショップ（WS）の体験を通じて、花のある暮らしへスイッチする消費者を増やす活動を進めてきたが、本年度は花店での有料化したWS開催での有効性を実証、花店が継続的な開催を行い、花店への新規顧客の誘導とともに、ホームユース需要の拡大を目指し取り組んだ。

## ②花のSDGs～ウェルブルーム～花の効果効用啓発活動

サステナブルとウェルビーイングを二軸とした花き業界のSDGs活動全般を「ウェルブルームプロジェクト（well-blooming project）」と称し、花の効果効用「#ビタミンF」の周知・社会記号化を目指した。花やグリーンが人々の健康や 幸福に資する存在であることを広めることで消費拡大を推進。自然環境やウェルビーイング（幸福学）の研究者にインタビューを行い、note『花とウェルビーイング のいい関係～#ビタミンFのヒミツ』に情報集約、業界内外にて共感を醸成した。

## ③花のSDGs～ウェルブルーム～花店と花流通の環境アクション活動

花き業界全体で環境アクションを推進。6月の環境月間に『well-blooming project』への参加を促し、各々の「環境アクション宣言」に沿って取り組みをスタート。9月のSDGs週間を機に全国約400花店において、「減らそう使い捨てラッピング」キャンペーンを実施、来店客への啓発および環境テーマに特化したアンケート調査を初実施。さらに、流通過程で多用される鉢トレイや保水容器などのワンウェイプラスチックの廃棄量を把握すべく調査を行い、環境配慮設計や水平リサイクルなど花業界の資源循環を目指す実証実験を開始した。

## ④アフターコロナの新たなブライダル切り花需要創出活動

「#花とフォト」の消費者への認知を高めるべく、公式サイトやSNSを通じた情報発信、自主キャンペーンに取り組むとともに、「#花とフォト」サービスを通じた新たな花きの実需を創出するべく、各地域で集客～顧客対応まで完結する運営拠点づくりを支援し、販路開拓の実証活動に取り組んだ。また、新たなチャレンジとして、「#花とフォト」の活動領域をウエディングから広げ、キッズやファミリーをターゲットにした家族記念日の新サービスの開発に取り組んだ。

## &lt; 取組の成果 &gt;

## ①花初心者向けホームユース需要拡大定着活動

店舗により参加費1,000円～2,200円で花初心者の参加者募集を行い、17店舗40開催、271名の参加により実施。概ね有料ワークショップであっても多くの参加者が集められることが確認され、来店誘導として実施してきたフラワーバスポートの交換率でも、無料開催時83.3%に対して、92.9%と増加することが確認できた。ワークショップ開催後のアンケートでは、1回目91.5%と参加者の反応は良かったものの、超初心者を参加者として集客するところでは課題を残した。

## ②花のSDGs～ウェルブルーム～花の効果効用啓発活動

note記事を通じ大手企業の広報誌などに「#ビタミンF」を含む「花のある暮らし＝ウェルビーイング向上」が記事化（大手マンション販売会社情報誌全国50万世帯配布／大手自動車メーカー労働組合報計13万6千部配布）。BtoEによる広め方を強化していく方向性を見出した。9月HAPPY EARTHイベントにて親子約50名、2月に10代20名を対象にワークショップを開催。自宅に花を飾る体験→自己肯定感が高まる可能性が見えてきた。近畿大学学生250名を対象に、「【花に関わる体験および「#ビタミンF」受容性調査】を実施。「#ビタミンF」という言葉の持つ意味や魅力は前向きに受容されることが明らかとなり、「花のある暮らし」をはじめる一つのフックとなり得ることが検証された。

## ③花のSDGs～ウェルブルーム～花店と花流通の環境アクション活動

well-blooming project への参画企業は6月スタートで当初の50社から110社に拡大。全国約400花店にて【減らそう使い捨てラッピング】キャンペーンを実施、来店客（約500名）のアンケート結果から、花のある暮らしを実現する消費者の9割以上が花店の環境アクションを支持・応援する意向であることが確認された。花店・資材メーカー対象ワークショップを継続開催（2回）。各社で花工コ素材が増加、参加花店が自社や地元エリアで勉強会を開催するなど学びの場が広がった。全国主要鉢物市場へアンケートを実施し、年間の鉢トレイ廃棄枚数を100万枚と推計。東京フラワーポートの協力で保水容器などプラスチックのアイテム別別廃棄量の計量実験を半年間行い「ごみの原単位」を算出。豊明市場と共に推進する鉢トレイ水平リサイクル実験に成功、高完成度のトレイが出来た。

## ④アフターコロナのブライダル切り花需要創出活動

自社メディア（公式サイト・Instagram）による情報発信を強化し、問い合わせ導線の改修を行うとともに、地域の「#花とフォト」のサービス拠点の開発支援に取り組み、主に以下の4点の成果を得た。

- 1）自社メディアを介した情報発信、自主キャンペーンにより、24組の問合せ、資料請求を受け、1件成約を得た。  
※ Instagramにて、5キャンペーン展開リーチ総数 61,999 / クリック総数 2,005 / CTR 平均 3.23%
- 2）消費者向けの自主体験イベントを開催し、121組（310名）の消費者にPR活動を行った。
- 3）大分・札幌・仙台にて、運営拠点開発支援とシュミレーション撮影を行い、エリア独自の販路基盤を開拓した。
- 4）集客～施工まで完結できるエリアの運営拠点づくりのためのマニュアルを再整備し、販路開拓に寄与した。



国際的園芸誌「Floraculture International」2025年4月号・世界の花業界サステナブルパッケージング特集にて、日本の取り組みとしてwell-blooming projectが紹介され、脱プラの環境アクションは花業界においても世界的な流れであることが確認できた。

<https://homeuse-hana.jp/wellblooming/>



<https://hana-to-photos.com/>

## &lt; 今後の取組予定 &gt;

- ①花の初心者向けホームユース需要拡大定着活動は、引き続き花店の#ABCワークショップ開催店の増加に寄与すべく、HPでの情報発信とプログラムの業界内への周知を図る。
- ②花のSDGs～ウェルブルーム～花の効果効用【#ビタミンF】啓発活動は、さらに次なる深掘りとして、SDGs意識が高い若年層を巻き込みながら、異業種や大学との協業で「花による自己肯定感向上の実証検証」を目指す。
- ③花のSDGs～ウェルブルーム～花店と花流通の環境アクション活動は、ワンウェイプラスチック削減をさらに推進し活動成果を可視化、活動の表彰制度なども検討を進める。
- ④アフターコロナの新たなブライダル切り花需要創出活動は、令和3年度より、新たなウエディングサービス「#花とフォト」の開発のためのモニター撮影及びマーケティング調査と商品化、運営・提供体制の整備、自社集客メディアの開発と運用、エリアの拠点開発等の実証活動を通じて、主要エリアでの販路開拓の見通しが付いたため、今後は、助成支援を受けずに「#花とフォト」サービスを提供できるよう自走支援に活動の軸を切り替える。

## 国産花き生産流通強化推進協議会（広域）

**協議会構成団体：**北の純情倶楽部、JAうご、JA全農山形、静岡経済連、熊本経済連、JA愛知みなみ、札幌花き園芸、東日本板橋花き、大田花き、FAJ、世田谷花き、なにわ花いちば、JF兵庫県生花、福岡花市場、木本生花、三和陸運、日比谷花壇、パークコーポレーション、M P S ジャパン

### 対象品目

国産花き切り花  
鉢物全般



T12型パレット 花き台車に積載可能



## < 取組内容 >

### （１）花き流通の効率化等の取組み

#### （ア）パレット・台車物流・拠点物流センターの利用促進の現状把握とスキームの構築

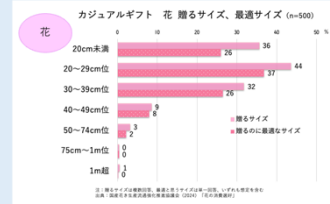
- ① パレット・台車物流および物流拠点利用促進のための実態把握とマニュアルの作成
  - ・パレット・台車物流の先進事例の収集と整理
  - ・パレット・台車物流の運用試験の実施
  - ・各関係者からの聞き取りによる状況把握
- ① 持続可能な循環型物流資材の共同利用に向けたスキームの検討
  - ・①を踏まえたうえでの、実際の運用方法の検討
- ① 流通フォーマットに最適化した発注適正化のための実需構造の調査

＊ 物流検討会を2回開催し、関係者間での課題共有と解決に向けた意見交換の場を設け、「リレー輸送」「共同配送」の事業者連携を促した。この結果、関西・四国地区での具体的な取り組みに進展した。

＊ パレット等の運用試験と先進事例調査に基づく、効果と課題の整理し、関係者向けの手引書を作成。具体的な導入のためのスキーム案を提示し、費用負担についても具体的な金額を整理し負担案の提示した。この結果、実践者の間での意識も変化が見られ、具体的な導入事例（愛知～東京間）にも繋がった。

<手引書の主な内容> 作業時間の比較、人件費削減効果、費用計算と負担方法の提案、市場等での運用方法、導入時の留意点、積載効率低下への対応策と考え方、花き物流に適したパレットサイズ（T12型）の提案、福岡モデル（近距離ピストン輸送）の有効性の確認、パレット購入型と乗り捨て型の比較、数量管理の課題に対する対応として、位置情報管理端末（Sigfox）の有効性について など

＊ 物流課題解決に向けた事業者が参考となる、流通フォーマットに最適化した発注適正化のための実需構造を調査した。（例：＊自宅用では、花では30cm以下が8割。植物は20cm以下が3割。短茎志向が顕著。短茎は物流負担低減、顧客ニーズに貢献。）

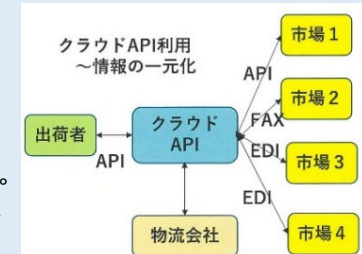


カジュアルギフト用では短めが人気

### （イ）出荷情報のデジタル化と活用の推進

出荷情報のDX化に向け、異なるシステム間を自動でつなぐAPI型クラウドサービスの実証。既存システムを維持しながら必要な機能だけ利用できる仕組みにより、導入・運用コストを削減が可能。併せて、出荷データと実物を紐付ける明細識別番号の統一に向けて検討を行う。CSV連携やJFコードの課題を踏まえ、より実用的なデータ連携の仕組みづくりを進める。

- ＊ 共通クラウドAPIを作成して実証を行い、以下が明らかとなった。
- ・データ送付／受取の作業が軽減でき、通常よりも低コスト（数百万程度）での導入が可能になった。
  - ・明細識別番号と本APIのコードを紐づけることで、統一ルールなしでも出荷者から流通まで一気通貫したコード付与（ユニーク番号）と管理が可能となった。
  - ・作成したAPIを元に実証試験を行い、市場でQRコードを読み取ることで自動取り込みができることを確認した。



### < 今後の取組予定 >

- ① 前年に続き共通クラウドAPIによる出荷情報のデジタル化を進める。
- ② 前年に続き物流関係者を集めた検討会を開催し、物流の効率化（共同物流、リレー物流、拠点物流センター利用）を具体的に推進する。
- ③ 台車・パレットのさらなる導入事例を推進するべく、台車・パレットの循環共同使用システムの構築を目指す。
- ④ 切り花の長期低温貯蔵技術は、天候、物日に影響されない安定した出荷・販売が可能となる。対象品目を増やして技術の確定をしていく。